

一般社団法人 東京電機大学校友会

千葉県支部だより

支部だより第19号発行にあたり

支部長 松本 宏



この度ここに「千葉県支部だより第19号」を発行する運びとなりました。これも偏に関係者各位のご理解と協力、そしてご指導の賜物であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

我が国は戦後七十年を経過し、安倍内閣は一億総活躍社会を掲げ、格差是正を大きな柱として、成長戦略を推進して行く日本を目指しており、期待したいと思えます。

さて、暦を紐解きますと、今年「申年」です。申は十二支の中で人間に最も近い動物です。そして「申」は稲妻を差した象形文字です。

加藤理事長は年頭にあたり「稲妻」の如く、と云い「未来に責任を持ち新たな発展を目指す年」にしたい！と発信されました。

一方校友会は一般社団法人としてスタート四年目に理事長・常務理事・事務局長全員交代・新たな方針に期待する所です。

全国の住所判明者は着実に増加しています。会員数は増えていません。むしろ減少しています。現在全国の会員数二万八千七百五十五人に対して千葉県支部は三、四一六人で、東京都支部・埼玉県支部に次ぐ大支部です。会員増加策も含めて、しっかりと支部組織を以って学園の応援団体と成る様、努めて行く所存であります。

運営に当たっては「企画担当役員」を決め、年間計画を策定し、運営して参ります。校友会本部のご指導にご支援をお願い申し上げます。

第19号
平成28年5月10日

発行人
(一社)東京電機大学校友会
千葉県支部
支部長 松本 宏
〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
東京電機大学
1号館2階
TEL 03-5284-5140
FAX 03-5284-5187

先ず役員充実(特に若手の登用)であり、主な行事として、一、総会の充実、今年四十六回(公開講演会の同時開催)二、拡大見学会、今年十九回目(昨年も東京都支部に協賛して頂きました)三、支部独自の支部だより(今年第一九号A4八頁)の継続発行です。今年も全国支部長様にも寄稿をお願いしました。*千葉県支部の皆さん是非!地元のため等を含めての寄稿をお願いします。

千葉県支部は会員各位のご意見を基に、「支部役員が一致協力」して、全国支部の中でも最も充実して、活気のある、そして楽しめる支部、と成るよう一層努めて参る所存であります。

今後共、会員並びに関係各位のご指導・ご協力を切にお願い申し上げます。

終わりに当たり、千葉県支部関係各位のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。支部だより第一九号発行に当たっての挨拶に代えさせていただきます。

ご挨拶

学校法人東京電機大学 理事長 加藤 康太郎



校友会千葉県支部の皆様におかれましては、松本支部長のもと、日頃から講演会や見学会をとおして、会員相互の親睦と研鑽に努められておりますとともに、本学園の発展にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成二四年四月に開設しました東京千住キャンパスは早くも五年目を迎え、おかげさ

まで学生諸君からの評価も高く、各方面より注目され、気を良くしているところでございます。また、平成二七年二月に着工した東京千住キャンパス第二期計画(一街区建物)の工事も順調に進捗しております。

さて、我が東京電機大学は、各種調査によりまして、創業社長の出身大学では第一位にランクされております。

また、就職に熱心な大学としては、全国第二位にランクされており、さらに、製造業への就職力は、全国第五位にランクされるなど、「就職に強い大学」のブランドを守っておるところでございます。

これもひとえに、皆様のご支援の賜物でありまして、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

また学生達の活躍としては、少し変わったところで、一昨年一二月開催の全日本学生王将戦(個人戦)で日本一に輝いた学生や、直近では本年一月二日から三〇日まで開催された欧州ラリーのフィンランド・ラリー選手権開幕戦で総合三位、日本人で初めて表彰台に昇った学生がいるなど、様々な分野で活躍しております。

本学は現在のこの状況を弾みにして、さらなる飛躍を目指して参る所存でございますので、卒業生の変わらぬ御支援をお願いする次第であります。

現在、「学校法人東京電機大学サポート基金」という恒常的にご寄付をお受けする体制も整っております。これまでも千葉県支部の皆様をはじめ多くの方々からご厚志を頂戴しておりますことに改めて厚く御礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご協力のほど、お願い申し上げます。

本学園のさらなる発展のためには、卒業生と母校の連携は不可欠であります。千葉県支部の皆様には、引き続きより一層のご支援、ご協力を賜りますよう、改めてお願いする次第であります。

最後に、千葉県支部の益々のご発展と会員皆様のご活躍並びにご健勝を心より祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

ご挨拶 輝く千葉県支部

一般社団法人東京電機大学校友会

理事長 松尾 隆徳



千葉県支部の皆様、今日は! 昨年六月に校友会理事長に就任した松尾です。大学卒業後、修行を終え故郷名古屋に戻り、父の創業した会社を継ぎ(東洋電機株)、今は会長をしております。(昭和四十年電気工学科卒)

松本支部長のご指導のもと、千葉県支部は三五〇名の正会員で、東京都支部が横綱ならば、埼玉県支部とならぶ両大関であり、校友会の大看板であります。

会員と母校を結び役目をしっかりと果たして頂いており、充実した諸事業の展開は他支部の模範であります。

母校東京電機大学も東京千住キャンパスに移り、益々充実した大学となりました。「理工系私立大学のトップを目指す」は必ず実現する勢いがあります。平成二十八年度からは新学長のもとに、グローバルで、足もとのことにも着実に対処できる実学に長けた、人間性ゆたかな学生が社会に送り込まれます。

卒業生は私立大学の財産です。その財産の集合体である校友会は、全国各地にあつて大支を支える大応援団であります。

大学内に於ける人造り、科学技術への貢献と、全国各地にあつて私達卒業生が個人として、組織人としてそれぞれの分野で祖国日本を立派にする努力、この両方がこれからの日本創生、日本再建の源と思えます。私達、東京電機大学人は日本のために頑張る使命があるのです。

東京電機大学は建学の精神「実学尊重」、初代学長丹羽保次郎先生の「技術は人なり」

を基本理念に科学技術を通して、日本に大変な功績を残して来ました。私なりに振り返りますと、毎日の授業は手づくりの実験・教育資材、素朴な人間味あふれる心のこもった指導教員、まさに実学の実践・実現でありました。私達が身につけた技術・学問の奥には指導教員の人格・品性がありました。「技術と人間の一体」を視る覚えることができました。この学生時代の体験が、社会へ出てからの問題解決の源となり、今日の私を作ってくれました。まさに東京電機大学の人間教育、実学尊重教育に感謝するところであります。

私が日頃から思っているのですが、
一、社会に出て今日あるのは東京電機大学で学んだおかげ。
二、今日、生活できるのも両親のおかげ。
三、今日も頑張れるのも家族の笑顔のおかげ。
四、能力の劣る私でも仕事ができるのは職場、お客様のおかげ。

まだまだありますが、「おかげさま」の人生ですから、「お返し」が必要です。それは家族への愛と職場での貢献、校友会への参加費の納入、母校東京電機大学への「寄付」を真剣に考え実行しましょう。

千葉県支部の皆様のご活躍、ご家族皆様のお幸せをお祈りいたします。

**平成29年4月に開設する新学部と新学科
東京千住キャンパス新校舎建設のお知らせ**
(学) 東京電機大学総務部(企画広報担当)

平成二十九年(二〇一七年)四月まで、一年足らずとなりました。平成二十九年は本学園創立一〇〇周年の記念すべき年でもありますが、次の二〇〇年に向け進化し続ける中で大きな変革の年となります。

まず、東京千住キャンパスに新しい学部・学科が誕生いたします。

新学部の名称は「システムデザイン工学部」。社会環境の変化と科学技術の進展に対応でき、グローバルな環境で社会が真に必要とする技

術革新を引き起こせる専門技術者を育成し、これにより「人間社会に調和をもたらし、社会生活に活力を与える知の創造」を目指します。学部は「情報システム工学部」と「デザイン工学部」の二学科で構成されます。

さらに、工学部に新学科「電子システム工学部」「応用化学部」「先端機械工学部」の三学科を設置いたします。工学部では「基盤工学の深化と進化」を掲げ、今後の社会の発展に貢献できる人材の育成を目指すこととしております。

本年四月に、東京千住キャンパスは、開設から五年目を迎えることとなりました。昨年平成二十七年二月には第二期計画(五号館・I街区建物)に着手し一年が経過したところであります。大学及び大学院における教育研究環境の充実を図るため、現在新校舎を建設中

第二期計画は平成二十四年に開設した第一期計画と同様のコンセプトにて計画され、地域計画に則り地域に開かれた大学として建設を進め、一階にはものづくり工房(仮称)、二階



建設中の新校舎(平成28年2月26日撮影)



完成予想図(新校舎は左手前)

には地域・産官学との連携施設を設置し、沿道の賑わいに資するような配置を、また周辺の住民の方々に対する地域貢献施設として「スポーツクラブネサンス」の設置が決定しております。校舎の拡充を通じて、教室、研究室などの充実と、ものづくり施設の新設、また設置予定の新学部に対応することとしております。

第二期計画の起工式につきましては、昨年千葉県支部だよりでお知らせいたしました。約一年を経まして、地下躯体工事と一階床のコンクリート打設が完了しました。

一月中旬には、地上部の鉄骨工事のためタワークレーンの設置を開始し、一月末までに予定通りタワークレーン二機の設置が完了しました。二月には高層部(一二階建)の鉄骨工事に着手し、二月末には高層棟五階まで鉄骨が組み上がったところで、三月以降も高層部の鉄骨工事及び各階床のコンクリート打設工事等を進め、引き続き低層部(五階建)の鉄骨工事を行う予定となっております。

次回の紙面では、開設直前の新校舎の様子をお知らせすることができると考えますと大変楽しみを感じます。

これから、新学部・新学科・新校舎の設置・開設までの一年間、卒業生の皆様に本学の元気活発な活動を折々にお伝えしてゆくと、できればと考えております。どうぞ引き続き格別のご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

千葉支部 第45回総会報告

常任幹事 市川 勝利

日時 平成二十七年六月一三日(土)
場所 東京電機大学千葉ニュータウンキャンパス教育棟二階二〇八教室

一〇時三〇分鈴木修一常任幹事の司会で、工学部機械工学部 工学博士土肥健純教授に「人を救う工学の目と手」というテーマで講演を頂く。

誰もが願う健康で幸福な生活、病気や怪我をした人を最高の医療技術で治療し健康を取り戻す。科学技術と工学技術による医療機器の開発が進んで治療と検査に多大な成果をあげてきた。コンピューター外科・内視鏡手術。古代では祈禱という非科学的な方法から始まり、薬草などの処方経験による治療方法に進み、現在では、高度先端治療及び診断をする時代となった。



講演会



外科医を助ける工学技術・腹腔鏡ロボット



第45回総会懇親会

内視鏡の先端部ビームスプリッタを搭載することで正面と側面の観察が可能となり、プリズムを用いたシリーザ内視鏡・集束超音波・三次元医用画像表示法を応用した医用機器を使用し診断及び手術を安全に確実に進める時代となった。

最近「神の手を持つ外科医」の話題がでるが、それを支えるのも工学技術である。二十一世紀からは、工学の手と目が治療の前面に出て、それを使いこなすのが一流の医師である、と結んだ。

一、二時一五分支部総会開催 鈴木正仁常任幹事の司会により始まる。

松本支部長挨拶（主な支部の方針を説明）

一、総会の充実（公開講演の同時開催）

二、拡大見学会（他支部との合同開催）

三、支部独自の支部だより（今年は第十八号 A4八頁版を発行）の継続発行。

今後共、関係各位のご指導・ご協力を切にお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。次にご来賓の紹介

一、吉村情報環境学部 吉村学部長・桑田学部の事務部長

二、校友会渡辺副理事長

三、小島大同窓会副会長、渡辺・中・高窓会会長・高橋電機学校同窓会長。

次に加藤学園理事長の挨拶（学園の現況を渡辺校友会副理事長が代読・併せて校友会の現況を丁寧にお話し頂きました）。

次に議長選出、支部の会則により松本支部長が議長に選出された。議事録著名人も選出さ

れ、議事が進められた。

第一号議案 平成二六年度事業報告 田中副支部長

第二号議案 平成二六年度決算報告 鈴木副支部長

第三号議案 平成二七年度事業計画案 市川会計監事

第四号議案 平成二七年度予算案 田中副支部長

第五号議案 支部役員改選の件 松本支部長

（ここで、第一号議案～第五号議案までの採決を取り、全員一致で承認された。）

会員三十六名来賓七名計四十三名

一三時四十分 学生会堂を会場にして懇親会を安藤副支部長の司会で開催。

吉村情報環境学部長の挨拶・平成三十年には当学部七住キャンパスに移動の計画がある。

続いて小島大同窓会副部長による「乾杯」

来賓各位の出席を頂き、出席者からは、様々な意見・提案もあり、和気あいあい、会は盛り上がり、十五時四十五分。若手の斉藤氏の一本締めにて終了した。

本所防災館見学報告記

副支部長 安藤 志朗

平成二八年二月二七日（土）今年の見学会は、東京都支部のお力を二年連続借りての開催である。千葉県支部の参加者減少が響いたのか？当日は、東京都支部の参加者が一五名、千葉県支部の参加者が一八名の三三名となつてしまった。場所的に、東京都支部管内という事もあり、東京都支部のお陰で、何とか昨年並みの参加者になった事は、東京都支部の皆様へ感謝である。有難うございました。

午後二時過ぎには東京都支部の皆様、千葉県支部の参加者が錦糸町駅北口に集合した。あと数名の参加者が、集まれば、予定通り三名だが、やはり、予定の時間には揃いそ



ない。携帯に連絡をしまくり、やっと参加者全員が揃ったのが、一四時二〇分。見学会まで徒歩一〇分なので、私が先に交渉して、皆さんの到着を待つ事になった。でも、見学のスタート時間に二分間合わず、大画面の東日本震災の悲惨な状況は、既にスタートしていた。

まあ、他にもお客様がいるので、しょうがない。通常は見学前に、集合写真も取るのだが、そんな時間も無く、参加者は大画面の暗い中を、座席確保に奔走、あの東日本大震災時の悲惨な状況を見る事になった。

今回の見学は、体験がメイン。見学先のご担当の方への挨拶も簡略化して、そそくさとエレベーターで四階へ。リアルな映像と音で

びつくり。

次が人数の関係で二つの班編成で東京都と千葉県の両支部単位での体験となる。四階から三階に下り、暴風雨体験。カッパに着替え、風速三〇mを実感して、この程度なら歩けると、鈴木さんたちは中を歩いて風を感じている。その後、暴風雨だ。雨と風、完全防備のカッパを着ているのに、袖口から少し浸透してくる、やっとなシヤツの袖をまくって下さいと言われた意味がわかった。立っているだけなのに、横から雨風が来るので、それが腕の中によび登ってくるのである。これは台風などの時に、海や川を見に来るなんて、馬鹿な考えを起こしてはいけないと思った。

この体験が終わると、次は一階に下りて、最近多いアンダーパスに閉じ込められた場合や、地下室への浸水時にどの程度の深さまでドアが開けられるかである。参加者の皆様方は、平均年齢が七〇歳程度。持てる力を出しても三〇センチの浸水ではドアははやくと開けられるほど厳しい。ましてや、四〇センチの深さでの浸水では歯が立たない。前に経験された方が、腰を痛めたとか、骨折されたとの話は本当だ。地下室では、早めに避難が正解だな。更に車からの脱出、高々ドア付近までの浸水でも、なかなかドアが開かない。これでは、携帯で助けを呼ぶ前に溺れ死んでしまうなど、ここでも車にトンカチを常備しておかなくてはと、考えた。

そして四番目の体験は、火災の消火である。私が自治体の防災担当のときに、「では、皆様消火器の使い方の方の訓練です」と具体的に説明したにもかかわらず、消火器のピンをはさずのが面倒になったのか、消火器本体を火災の火の中に投げ込んだ方がいましたが、消火器は中の液体などで、燃えているものへの酸素供給を遮断して火災を消すもので、泡や炭酸ガス、水などで構成されている。また、三〇秒程度しか放射できないので、いかに、標的に的確に液体をかけるかである。和束な時

間で消せない、再び火の勢いは増して、燃え方が更に大きくなるのである。

説明のあと、参加者全員が「火事だ、火を消せ」と大きな声で叫びながら、消火器を説明のとおり握り、ピンを開け、火元目掛けて消火剤を当てた為、全員の参加者が消火に成功した。これなら実際の火災のときにも我が電機大学校友会の皆様方は、安心である、と感じた。

四つの体験を終わったのは、予定時刻を少し回った一六時三〇分。見学先の皆様にお礼を述べて、集合写真を撮るため、入口の看板をバックに、参加者全員画像に納まった。

これから、最も大切な懇親会である。今回は二時間半という普通の時間より長い時間を頂いている。錦糸町駅まで戻り、会場へのエスカレーターとエレベーターを使い、七階の「龍の頂」へ。またここでも、時間をミスってしまった。三三名という参加者なのに二九名しかいない。四名足りない。役員が手分けして名簿を確認し、到着していない四名を探す為会場の一階入口へ。

やっと揃い、学園の状況などを石崎副理事長に紹介していただき、さあ懇親会である。今回は料理も飲み物も何でもござれなので幹事は大変楽である。好き勝手に飲んでくださいと、各自で自由に注文できる。これは大変ありがたかった。

でも、最後の三〇分役員会を開催したいと考え、中締めを少し早めたが、その後、不具合が突然発生した。ご自身の履いてきた靴を忘れてしまい、これでは三〇分間靴探してある。やっと、思い出されたのか、置いてあった靴を自分のものと確認され帰られた。

そのあおりを食って、反省などの役員会は殆ど出来ずじまいとなってしまった。でも参加された方から、丁寧な有難いお礼状が届き、嬉しい見学会となった次第です。

次回も東京都支部のお力をお借りして更に

盛大な見学会にするべく、見学先の検討を始めます。ご参加の皆様有難うございました。でも、ごめんなさい、参加者へお渡しする防災館からの名刺サイズのしおりを渡し忘れ、持ち帰ってしまいました。次回役員様經由で、総会などでお渡ししたいと思います。

憲法第九条について

鈴木 修一

憲法を読んだことのある人はそんなに多くないのかもしれないが、大層な書籍ではなく、字数にしても一万字強の文書であり、その中でも九条は百字を幾分越える程度の一文であるから以下に添付する。

『第九条 戦争の放棄』

『第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。』

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。』

この条文を読んでいて違和感を持つ部分があると思うが、「前項の目的を達するため」の文言がなぜ必要なのか、裏を返せば「戦争と武力による威嚇又は武力行使」の他に、まだその目的ではない別の何らかの戦いが有って、そのためには陸海空軍その他の戦力を保持して良いと察せられる。

そこでこれまでの過程を記すと、終戦と共に旧帝国陸海軍は無条件に解散させられ、新政府はGHQ(連合国総司令部)の支配下で政治を行い憲法改正も指令されていたが、明治憲法に縛られ埒が立たない状態を耳にしたGHQのマッカーサー長官が、自からの意思を次のようなマッカーサーノートなる三項目にして具現化した。その三項とは、その一が天皇制の条項、その二が戦争放棄の条項、その三が全面的な封建制の排除と記されていた。ただそ

の二の戦争放棄の内容が具体的文章として表記されており、それには「国の主権の権利としての戦争は廃止する。日本は紛争を解決するための手段としての戦争及び自己の安全を保持するための手段としてさえも戦争を放棄する。日本はその防衛と保護を今や世界を動かしつつある崇高な理想に委ねる。いかなる日本も陸海軍も決して認められず、又いかなる交戦権も日本軍隊に対して決して与えられない。」と記されていて、わざわざ紛争を解決するための手段と、自己の安全を保持するための手段とに分けてその両者の放棄を要求している。

さてここで言う紛争を解決するための手段としての戦争とは、一九二八年にパリで締結した国際法である「不戦条約」に基づく侵略戦争を意味している。従ってもう一方の自己の安全を保持するための手段としての戦争とは自衛戦争を意味する。しかしながら「不戦条約」には自衛戦争は何ら触れていない。それは自国の主権を脅かす領域侵入や人命の危機に対しての自衛は、条約に記すまでもなく、主権国家である以上当然の権限である旨の解釈が世界の常識になっているからである。

そうするとマッカーサーが「自己の安全を保持するための手段としてさえも戦争(即ち自衛戦争)を放棄する」と念を押しているのは、GHQの配下では日本を主権国家とは考えず、安全の全てがGHQに依存するとの立場をとっていたのであろう。それ程長い期間GHQが支配する筈もなく、その時には否応なく日本人の間に改憲の意識が醸成されると思っていたに違いない。

そしてこのマッカーサーノートは日本側に指図される前に、GHQ内でも意見の調整がなされ、日本の自衛権まで剥奪することには異論が出され、マッカーサーもそれ程にはこだわらず自衛権の放棄を意味する部分についてはこの段階で取り除かれた。GHQから憲法案が日本政府に提示され、両者の間で最終調整

が行われ、その合意した憲法九条は「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、他国との間の紛争の解決の手段としては、永久にこれを放棄する。陸海空軍その他の戦力は、これを保持してはならない。国の交戦権は、これを認めない。」と纏められた。この後に衆議院に上提され憲法改正委員会(後の首相)により「日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」との平和維持の精神を前文として付けられると共に、2項の前半に「前項の目的を達するため、…」との条件文が置かれる。

ここまで説明してきたことにより読者の皆様も理解が進んだと思うが、本書の初めに提起した「前項の目的を達するため、…」の条件文はあくまでも、憲法に表記されている侵略戦争を修飾する文であって、「不戦条約」に倣って憲法にも表記されていない自衛戦争には適用されないとの意思表示である。

本記述の中では字数にも限りがあるので、衆議院の侃々諤々の論議には触れていないが、実際には時間ぎりぎりまで論戦が続ぎ、九条には審議漏れが出た。それはシビリアンコントロール、所謂大将とか参謀長等軍隊の一員は入閣できないと云う条項が抜け落ちていてこれはその後の貴族院(現在の参議院)で審議中に、第九条への編入は憤り、第六六条二項として軍人でない人達と云う意味の文民と云う言葉を作り、「内閣総理大臣その他の國務大臣は、文民でなければならぬ。」との条項が追加されていて、自衛軍が存在する明らか裏付けになっている。

しかし、新憲法が一九四七年に施行後、吉田茂首相は戦後の復興と経済発展を優先する手段として、軍備に予算を配分しなくて済むように、自衛戦争が侵略戦争かの判別は難しく、九条は再軍備を禁じているとの解釈を徹底した。ところが一九五〇年になると朝鮮戦争が勃

発し、GHQから軍備を依頼され、警察の強化で補つこの名目で警察予備隊が創設され、これが保安隊と名前を替え現在の自衛隊になる。一九五二年にサンフランシスコで講和条約の締結時に吉田首相がダレス國務長官から独立国家としての再軍備を促されたり、一九五三年に来日したニクソン副大統領が、日本の非武装化は誤りであった旨、日米協会で公式発言をしたり、日本政府の憲法改定意識を煽るつと図るが、政治のルーティンには大きな影響を与えなかった。

しかし東アジアに限っても、目を凝らしていれば確実な変動が続いていて、例を索くならば中国の力による拡張主義が著しく、米國がベトナムから兵を引いた直後に地下資源を狙ってベトナムの西沙諸島に進駐して実行支配を続け、米國がフィリッピンを撤収したらフィリッピンをミンスターフ礁を占拠し軍事支配したり、記憶にも新しいオバマ大統領が、アメリカは世界の警察ではないとの発言後は、公海である南及東支那海の環礁を埋めて幾つもの軍事基地にしたり、海底ガス探査を装った軍事施設と解する設備を増したり、公海の覇権を主張しようとしている。又尖閣諸島の排他的經濟圏に駆逐艦等の軍艦を改造した巡視船が徘徊するようになり、海上保安庁の船に脅威を与えている。一方朝鮮半島でも竹島を不法占拠したり、核爆弾の威力増大を仄めかす等、日本はこつした横暴な国々と隣り合わせていて、この地帯から引越す訳にもいかず、訴える先もないに等しく、強力な自衛手段を保持して、相手を抑制するしかないだろう。

米國との安保条約があるとは言え、自國の義務と責任を疎かにはできず、まずは解釈の難しい憲法九条を素直な綴りに改め、憲法第六六条とも合わせ、持たず、作らず、持ち込ませずの核兵器の扱いも明確にする等、この九条の改正が必須である。それと合わせて石原元都知事が憲法の文脈が幼稚であると批判

し、橋下前大阪市長は地方分権を進める為には憲法を替えなければならぬ等の主張をしていて、日本国憲法を作り直す事が本題のようにも見える。

《参考文献》
「平和憲法を疑つ」 勝田吉太郎（講談社）
「いちばんよくわかる憲法第九条」 西修（海電社）

北陸新幹線開業から一年

石川県支部長 新明 伸市

石川県の最近の話題は何と言っても昨年（二〇一五年三月一四日）の開業から一年、北陸新幹線がもたらした地元の変化だと言えます。地元での生活実感や行政機関等からのデータを参考に、その変化を紹介したいと思います。マスコミ等での開業一年の変貌と評価は観光やビジネス面で開業効果を得られた一方で人材流出や空の便の低迷などの課題を指摘しています。少し、一市民、県民としての実感を述べてみます。

北陸新幹線開業・・・？そもそも千葉県支部の皆さんも含め、貴方は北陸とは、どの辺りの地域なのか正確に言えますか？私が、まだ現役で勤務していた頃に東京本社主催で全国の出先機関との間で電話会議が盛んに行われていました。その際、よくあった間違いが北陸と東北との区別でした。会議の流れからは北陸とのやり取りの順番でしたがスピーカは「東北さん東北さん」と呼び掛けてくるので困惑した経験があります。当然、その電話会議は暫しの無音が続いたものでした。



ひがし茶屋街

今でも全国天気予報なんかで北陸と東北地方の区別が混然とした報道が見られるのは気になります。

新たな交通インフラの影響が端的に表れたのが観光でした。東京へ金沢は最短二時間二分で結ばれ利用者数は前年同期の在来線に比べて約三倍に増えました。北陸新幹線の乗客数が累計九〇〇万人を超え、最近では千万人も間近だと言われています。

県のデータでは二〇一五年に石川県を訪れた観光客は首都圏（一部六県）からが四五〇万人（前年比八六％増）、関西圏（二府四県）からが二七二万人（同八％増）で統計を取り始めた一九五六年以降、初めて東西が逆転したところです。その反面で羽田と小松や富山間の航空便は、それぞれ四割減となりました。

元々、石川県は陸の孤島的な地域でありながら関西寄りの意識、文化、生活だったと言われてきました。旧国鉄時代から関西方面行が上りて東京方面が下りてした。しかし明らかに変わったと思われるのがエスカレーターでの立ち位置です。関東では右側、関西では左側を空ける風習があるようですね。新幹線開通までは特に立ち位置を意識していなかった地元の人でも観光客が増える中で自然に関東寄りになりました。この先、関西圏まで新幹線が延長された後の、立ち位置がどのように変化するのが想像すると面白いです。

次に観光客の皆さんによる、町歩きの影響も大きいものでした。金沢の代表的な観光地の近江町市場、ひがし茶屋街、兼六園界限等は大体、駅前から二〜三km圏内、これらの観光スポットを歩いて楽しむ傾向が強く、新たな「歩く観光ルート」が定着したようです。厚労省の統計では首都圏の皆さんの方が石川県民より歩く機会が多く歩数も一割程度以上多いらしいです。確かに私自身も通勤の往復、宴会時の代行運転、日常の買い物、あぐくに近所のゴミ集積ステーションまでのゴミ出しもマイカーで行くといった具合です。

車社会と共に沈滞していた駅前の商店街振興組合の話では観光客による町歩きの増影響から五年前に商店街の三〇％を占めていた空き店舗が今や五％に減ったと言っています。

新たに出店した郷土料理店などの店先にはメニューを書いた看板が並び観光客が品定めをしながら暖簾をくぐる賑わいが地元の人にも元気を与えているようです。私事ですが二年前に金沢市の景観プロジェクトから委嘱され活動していました。私からの、おすすりルートは夜間景観と裏路地を歩く金沢用水巡り、そして暖簾の似合う町歩きコースです。興味のある方は金沢市のホームページをご覧ください。

この原稿を書いている今は、正に大学受験シーズンの真っ只中です。これまで県内の受験生の多くは、関西、中京圏を中心に、そのあと関東圏と言った選択でした。この受験傾向にも変化が現れると思います。

交通インフラは情報通信路と同様にA点とB点を強く相互に関係付けるものです。金沢から以西への早期延伸着工に対しては関西圏からの大きな支援も相互の地域圏に取って有効だと思います。将来、北陸新幹線が関西圏まで延伸され東・名・阪の代替にもなる東・金・阪のルートが完成した後の郷土は、さて、どの様になっているでしょう。。。。？

新幹線開業から一年。新たな交通インフラは旅行者だけでなく文化も運んできました。文化が変わればビジネス手法も変わりました。文化もビジネスも質量の大きな塊から強い影響を受けます。今後は小さな塊でも特徴ある付加価値を付けた密度の高い町作りを進める必要があると思います。校友会石川県支部としても特徴ある地域の発展に何らかの貢献ができればと考えています。終わりに千葉県支部の皆様方も是非、北陸新幹線を利用され北陸方面にお出かけください。

少ない電力から大きな電力を得ることができたら

江川 正次

地球温暖化が叫ばれてこの方、人生の集大成として、今まで研究してきたことを礎とした社会貢献に「念発起し『無公害発電』というテーマを掲げ、取り組むこと30年、実用新案を取得するに至った。

地球上でも海中でも空中でも、電荷やイオンは平衡状態に充満していること、地球が巨大な磁石であることより、銅線で縄跳びをすることで微弱な電流が発生することは容易に想像できる。開発は次の実験から始まった。
①海中にアルミ版と銅版を浸し0.8V程度の電圧が得られた。IC集積回路によって電圧を上げ、2.3Vのキャパシターに充電した後、これらを3個直列接続し、6Vバッテリーに充電可能であることが分かった。
②地球の引力と重力加速度を利用した発電を考えた時、回転する円盤を思いつき、角速度に起因する慣性モーメントのエネルギーを利用できないかと考えた。このことにより、モーターを発電機に変身させ、原動機不要の発電機が出来るのではないかと考え、円盤の慣性モーメント利用で、機械的効率を高めるため、俗にいうフライフォールと考えた。

直径20cm重量5kgの鉄板内に、十文字に溝を作り、これは錘のついたスプリングの伸びと、縮みのガイドとするものである。これは平成18年8月31日付に実用新案登録第3185510号、名称「遠心バネを有する慣性・他励パルス発電機」として公開された。

特許庁HP http://www.ist.go.jp/chizai/tokkyo/taiyokou/14/24_23.html 参照
この遠心バネ錘円盤を直流24V400Wの他励モーターの電機子両端軸に取付けることで完成を見た。平成21年2月18日付で実用新案登録第3149030号、名称「慣性他励

パルス発電機」として登録した。

動作概要は、モーターを起動し回転数が、3300RPMになると、遠心バネ錘円盤の錘は、4方向円周に広がり、慣性モーメントは最大となって発電を行い、3000RPMになると、錘は中心部に縮み、再起動時の入力電力で大きな電力を作り出す物である。

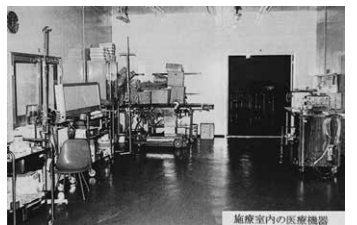
わずかな入力電力で、さらなる大きな電力を作り出すという工夫が、今現在改善の余地が残っていると考えるが、実用には支障なく充電が可能である。入力対出力の比は2.7倍程度であるが、3倍を目処に、実験を進めたいと考えている。最終目標は現在の装置の小型化を実現つまり、蓄電池・フライホイール・発電機・キャパシター・太陽電池を組み込み一つのパッケージとした装置にすることで、原動機から発電までのすべての電力を「小電力」から生み出し家庭用・業務用など様々な用途にまで展開できればと考えている。この「少ない電力から大きな電力を得る、エネルギーの法則にも反したような装置を、より現実味のある物、実用的な物に育て上げて行くため、本件にご興味のある方がいらした是非ご連絡いただきたい。一緒に未来を変えましょ。

懐かしの放射線

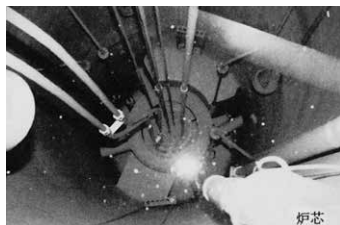
松本 袈裟文

「放医研」見学会、案内の流れに身を任せるうち、匂いが虚ろな記憶をさそった。

「中性子捕捉法による医療照射」を主題に原子炉総体機能と付帯設備の整備に協役で参加したことが、重量扉を面前にして僅かによみがえった。
軽い粒子から重いものへと転換されたものを見るに、通路のガラスを鏡にした。
写真は略四十年前のものですが、治療室とその内部、制御棒駆動装置の調整、炉心の核反応とチェレンコフを黒子の手箱よりお届けいたします。ありがとうございます。



治療室内の医療機器



炉芯



調整中の制御棒駆動装置



制御棒駆動装置の調整台

九十九里浜は九十九里ある

小塚 和盛

千葉県在住の小生は他県にお住まいの方から九十九里は誇大命名ではないかと、からかわれたこともあり、老化防止のために手許にあった日本文芸社発行の「日本語おもしろ雑学集」を開くと、古い計算では六町を一里としており、現在の測量値では56km約十町とこのこと。
ところが手持ちの百科事典を紐解くと55kmとなっているのです。

どちらが正しいのかはともかく命名の時代は一里は六町だったようなので、一町は六十間。一間は六尺ですから約1.8m(1町)の間の一里は約1.8x60x6=648(町)となりませう。

これを九十九倍すると64.152(km)となり計算が合いません。これは基準点の違いか、測量のミス、或いは意図的に基準の尺

を短くした。などが考えられます。

三国志によれば、一夜に数百里を移動したなどの記述がありました。が、解説によれば現在とはかけ離れた長さの値だったとの記載を読んだ記憶があります。その頃は尺度の統一ができていなかったのではありませんか。

一里が六町だったのは豊臣秀吉の時代までであって、年貢米の平等名目で太閤検地を実施したことを考えれば、基準の尺を短く測量したのではないだろうか。また、「九十九」を「つくも」と読ませることもあり、「多くの」「非常に長い」、などの意味もあります。(中国では九を縁起の良い数とも)

そこで再度手許にある資料を調べてみると、千葉県企画部広報課発行「うつごちばへ」に、北端は飯岡町(現在は旭市)の刑部岬、南端は長生郡一宮町(現在はいすみ市)の大東岬まで66kmの記述を発見しました。

これですと前述の64.152kmに近似値となり納得出来るものとなります。私には測量、命名の時期は判りませんが、その技術は既に奈良時代には発達していたと考えられるのです。その根拠は平城京の遺跡発掘で、宮殿はもとより整然とした町作りがあったこと、それを確信したので。

戦国時代までは先進国の中国文化が入っていたことを思えば、長さの単位を定め、測量を行なう技術は進歩し、城造り、町造りで発揮され、優れた神社仏閣の建造が可能だったとは考えられませんか。

時代が豊臣から徳川へと替わり、一里が三十六町と改定され、各街道に一里塚が設けられ松や榎などを植えて旅人の目印や、休憩所として活用されていたことは、皆さまがご承知のことと思います。

我が国が尺貫法で統一されたのは前述した奈良時代からではなく、国内の交易が広がることで太閤検地に始まり徐々にひろがったのではないのでしょうか。

その一つに神奈川県鎌倉市にある七里ヶ浜

の命名で考えると、稲村ヶ崎から小動岬はおよそ2.5km一里六町の計算でも三里半余りしかありません。源氏が幕府を開いたときに海側からの敵襲に備え誇大な名を付けたとは考えられませんか。または一里が三町であつたのかも知れませんが。

今はなき電機学校・後楽の想い出

田村 眞紀夫

人生母校への想い、東京電機大学電機学校。明治四十の秋九月、ECRの健男兄と校歌、早いもので卒業して三十四年の歳月が流れた。光陰矢の如しとはこのことであろう。

私は義務教育のみで社会に出て働きに出ました。十六歳の春、当時は高等学校に進む人は、クラスでも数人の時代、家族の生計を支えることだけを考えていました。

早くから社会に出て人生の機微に接し乍ら必死に働いた。負けじ魂がこの頃培われた。大人の中に入って根気良く仕事の生業の多くを体験させていただいたと思っています。

しかし仕事が出来ても学歴社会が台頭する時代に入るや、学歴で差別される待遇や処遇の中で味わつ悔しさが湧いたものです。

しからばと自問自答しつつ種々な選択枝を思考、学歴を埋める手段として資格を身につけようと決意する。

最初に意識したのが機械系のボイラー技士でした。蒸気圧力を得て動力にする、早い話がS、蒸気機関車でした。ボイラー技士養成所に入り勉強が始まった、社会人になってから初めて通学の一步を踏み出す。実習実務を得て試験に合格、ボイラー技士の卵誕生。

バーナー燃焼から発する連続燃焼音、除々に上昇する圧力、熱気もさること送気圧力監視は汗だくの日々だった。その後もしばらく病院のボイラー責任者として設備管理につきも関係関連する資格に追われる身となりその後も次から次へと勉強が続いた。

この頃は高度経済成長と共に社会全体は公

害問題が出て、大気だ水質だ騒音だ世の動きは騒然としていた。私は大気を汚しているのはボイラーからのばい煙とのことで公害防止管理部門の勉強に日々を費やした。まさに仕事と勉強、教本は手から離れることのない毎日でした。

「負けじ魂」は続く、勤務していた大きな病院内の電気設備室には国鉄電力区を停年とされた電大の大先輩が勤務していました。ある日私のボイラー室に來られて、私にこれからは電気時代になるから電気勉強が必要と語られた。でも高卒でもない私には無理でしょつと、いやいや神田に中卒で入学出来る電機学校があると進められた。

一大決心、数学が出来ないそれでも大丈夫と、昭和五十四年の春工業高等課程電気科に入学許可をいただく、同時入学者五十数名の一生徒となる。夜間二年間の始まり、最早後戻りは出来ない、オームの法則からなる電気理論づけである。

一年次通過するも二年次に入って最早これまでと何度も思った、学力についていけない弱音が出る苦しい三年間だった。電気は嘘をつかない、ごまかしはきかない。数式で証明されることまさに理路整然なり。三年後の春五十七年級友は二十六名卒業、二十六人中十五番目にて晴れて卒業する。

その後病院勤務から都心の赤坂にある森ビルに勤務、特高設備を実習しつつ第三種電気主任技術者免状を取得する。先生方の熱い指導のお陰をもって伝統ある電機学校を卒業したこと学べたことを誇りに思います。今でも恩師の顔が忘れられないし一生続くこととしょつと、感謝の気持ちで一杯です。

学窓から数年後後楽の校舎は廃止となり、小金井、坂戸、印西、北千住と学校法人は大きな組織体となつていったことを工学情報誌で知った。

技術革新は日進秒歩とまで言われ、強電、弱電、から電子工学へと電気は電子化が急速

に進み地球上のあらゆる電波が電磁波による電子により制御コントロールされる時代となった。まさに隔世の感という他言葉なしてある。今はビルもビルコンピュータ、システム制御となり現場で汗することもなくなつた。淋しい気もする。

夢を追いつけた昭和の時代は去つた。又産業界に足跡を残した社団法人東京ボイラー技士協会も解散となつた。協会役員として二十年以上勤めたことも誇りに思う。

第三の人生スタート、今は独立起業し運送業に転進し物流業務についています。電機学校有難うの言葉を胸にしつつ古希の道を歩んでおります。

possibleの限り先輩諸兄と共に想い出を語り会いたいです、いづれ又再会を楽しみにしつつ思い出の記とさせていただきます。

億万長者の夢実現か？水から燃料

安藤 志朗

皆様は、前回の支部だより一八号で紹介いたしました「エマルジョン燃料」をご存知でしょうか？既存の重油や灯油・軽油・ガソリン・植物油などの燃料油一〇%に九〇%以上の水を加え、界面活性剤で結合させ、攪拌し、完全燃料を作りあげたもの。開発の歴史は古く百年前から欧州を中心に、研究されていた。

しかし、実用化されていない。それは水と油は犬猿の仲と言われる位混ざり合わないもの、周知の事実です。それが完全燃料となつて成功したのだ。こんな馬鹿な話は、理科系に所属するものにとつて、馬鹿らしい事と、一蹴してしまつていないですよ。

しかし、日本海事検定協会の分析結果で完全燃料として認定されたのである。また全国八局のテレビ局で放映されたので、ご覧になられた方もおられるのではないのでしょうか？今後は全国ネットでNHKを含めて放映されますので、ご覧下さい。

その最初の軽油燃料が、今大月富士吉田間

を定期運行バスとして使用され、実際に毎日走行しています。この開発者は国内で、フランス販売を始めると日本の常識として、トップメーカーなどから圧力を受け、完全につぶされ、日の目は見ないと、全て外国と契約を結び、現在アメリカやロシアなど四七カ国と調印が終わり、まもなく精製稼動するのである。

さらに、次の燃料として、完全水から完全天然ガス精製まで開発してしまつた。これはまだ実験段階の精製技術であるが、これも数年後には実現する。そうすると、今は国内のタクシードルしかご覧にならない、LPガスタクシーが自家用車でも激安値段で走り出す。びっくりボンです。

モット凄いののは東京電力と同じような電力供給にも進出する。これも、燃料を作り出す精製技術を使って可能となる。飲料水は今安全な水という事で中国などでは戦争してても欲しいもの。それを富士山の地下から、毎日タダで汲み出して現金を得ている。それを使って、燃料・ガス・電気を単なる水から精製した技術は評価されても良いと思う。

今は、株発行していないので誰も知らないが、本題の億万長者の夢は、この未公開株の事である。本年一月頃を目途に、野村證券を通じて、公開されるとの事で、この株を所有されている方は、一株三百万と主幹事の野村證券が話している。

もしも本当に、この技術が完全に確立し、実用化されたら、日本は産油国だ。新産油国が水から誕生するのである。面白いと思いませんか？これが世界に周知されたら、既存の産油国は軒並み減産を余儀なくされ、その技術はノーベル賞物となるに違いない。何故って値段が馬鹿みたいに安く、資源は日本ならそこらじゅうにある水だから。九〇%以上の水と一〇%の燃料で出来る完全燃料。そんなれば、燃料単価はごみ以下。夢の燃料となる。

今世界を賑わしている最たる克服課題は環境問題・地球温暖化です。これを阻止する

為国際会議まで開催しているが、一向に話は進まない。でも、この水から燃料を使えば、何もしなくても、この精製燃料で、最低でもCO2は五〇%減、SOXは三七%減、NOxは三七%減となる。この技術がモット進化するれば、その五割増しまで地球温暖化物質を減らせる事が可能となる。地球温暖化問題は無くならない。何もせずとも、この燃料を使っただけで、CO2Pの削減目標は簡単に達成できるのである。

環境負荷も少なく、値段も大幅に安くなる新燃料、売れないはずが無いですよ。勿論日本海事検定協会の完全燃料のお墨付きも付いている。まだ確定ではないので、完全な紹介は出来ないが、本年一月頃になれば、私が話していた億万長者への道が現実となる。

今はだまされるかもしれないと、馬鹿な安藤と想っている方が、かなりいます。億万長者になってから掲載しろとお叱りを受ける事も理解しながら、書いています。だまされたとなると、出資も支援も嘘で、私は、どぶに現金を捨てたこととなるけど、その無駄な出資が夢から現実になるかどうかは、まだ未定です。現実となると私は億万長者。それも一生遊んで暮らせる億万長者となる。夢で終わるか現実となるかは、本年の暮れ。皆様も破産して、落ちぶれた安藤を見るか？億万長者の安藤を見るかご期待ください。

そしてこの水から精製の燃料を使うと同時に、東京電力を解体して、安全な水で作る電力を使用してみてください。私たちが生きていく間は、水は無くならないでしょうから。その頃には、更に進化した技術で、空気から水を取水し、燃料や天然ガス、電気を作っている事でしょう。

高橋尚子が夢は持ち続けられれば、達成されると言っていました。私は公務員時代、全国唯一東京都だけが実施していた試験制度で「主任係長管理職」を乗り切った折に、後輩たちへのメッセージで、「試験に合格したいと

思うなら、合格するまで受験を止めるな」と講演してきた事が、今回の技術開発に繋がったのではないかと考えています。夢は夢で終わらせない信念こそが、進化する原動力である。そこに我が母校の実学主義をサブらせて。

鈴虫の生涯雑感

鈴木 正仁

知人から夏に預かった鈴虫について話を進めます。残り二匹の雌が秋半ば十一月八日動かなくなりました。爪楊枝でコンコンと叩いても逃げるとか反応が全く無い。昨日までは餌(加子、胡瓜、鯉節)をやれば寄って来たのに残念である。今日までの経過を綴り追悼したい。

夏、施設に同居している婆さんの見舞いに出向いた時に隣家の知人に頂いたものである。入手した時はとても小さく二十匹程で籠も小さくて良かった。それでも大きな容器に代える様話があり自宅に帰ってからはバホームに出向き容器と虫用のマット・止まり木を購入し半分十匹毎に分けた。

マットは霧吹きを行い湿らせて住み易いように環境を整えた。鳴き始めるのを楽しみにして餌を毎日新しいものに変えて順調に生育するように祈り飼育を開始した。

入手時の鈴虫は当然小さく、しかし動きは素早く流石一虫だなと感心した次第。孫の夏休みの観察日記用にこの鈴虫セットをやると話したところ幼稚園に話を繋ぎ、最終的に幼稚園で飼って貰う事となった。

鳴き始めたのは残暑になり始めた八月末頃である。優しく切ないリリリが聞こえ始めたときには良く鳴いてくれたと喜んだ。容器の中は大きくなった虫たちが入り乱れて遊んでる。

最初はペランダに置いたが、小蠅が発生したので玄関の中に置くようにした。新しい餌を虫にやる時蓋をあげるがその時に飛んでる小蠅は退去してもらい除去してきた。キン

チヨールを使うと鈴虫も弱らしてしまうので使用禁止である。

小生は毎朝マンション隣の公園でラジオ体操を老人有志でやっている、その場で鈴虫の件を披露した所、聴いてみたいの申し出があり数軒のお宅に一晚であるが邪魔させた。若い時に聴いてから何十年振り聴けて懐かしかったと大いに喜んでくれた。

十月に入ってからはまだ元気でいることをラジオ体操の仲間に報告しました。しかし十月も中旬以降になると共食いが始まってきた。加子の上に脚だけが残っており、時間がたつとそれすらも無くなるのを観察した。

鯉節は湿気を呼ぶので二日に一回は新しく交換したが鯉節のメーカ違いで鈴虫は選り好みするの由来は数種を比較して出るのが観察したい。

卵が土に産卵されたかは確認できないが残骸を丁寧に取り除き、友人にも知恵を借りて今年卵が無事孵るように見守りたい。

尚、鈴虫の鳴き音は雄が羽を擦り合わせに出している。雄は雌の餌食になり十一月はじめには音色は聴けない状況の羽根無しの細身に変わり果てた。南無阿見陀物。

千葉県支部総会と公開講演会

及び懇親会のご案内

日時 平成二十八年六月十一日(土)
10時30分 受付10時00分
会場 東京電機大学
千葉ニュータウンキャンパス

◎公開講演会 10時30分〜12時00分
講師 東京電機大学理工学部
本間章彦 教授

◎第四十六回総会
12時15分〜13時15分

◎懇親会 二階職員食堂
13時30分〜15時30分

◎会費 三千元
講演会は公開講演会ですので、一般の方々

も含め、どなたでも無料で聴講できます。

講演では、人工心臓の抱える問題点と必要とされる技術、耐久試験装置の開発に携わった研究者と技術者の開発秘話など、実例を紹介しながら、人工臓器を支える人と技術についてお話しして頂きます。

◎献金のお願い!

現在当支部独自の支部だよりを発行していますが、印刷費は本部の支援が無くなり、支部役員の寄付に依存しています。

そこでこの度、「1000円・複数歓迎」をこの支部だよりと同封する支部長名の総会案内に「支払方法」を記載させて頂きますので、「是非」協力下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

今年も千葉県支部だより第十九号を発行することが出来ました。

本号は石川県支部新明支部長の寄稿をはじめ皆様より沢山の原稿を頂きました。感謝をしております。有難うございました。

本号も八頁版にまとめましたが、残念ながら掲載することが出来なかった原稿がありました。八頁に収めるための方原稿などは内容をかなり削って頂きました。堀岡氏よりの「日本のエネルギーの将来を担う太陽光発電その一 結晶成長技術と太陽電池」の記事を掲載することが出来ませんでした。この記事に関心のある方は、日経テクノロジオンライン「超伝導磁石不要で低コストにした高品質単結晶シリコン製造法」を参考に頂ければ、より正確な情報が得られます。来年度は第二十号の発行を予定しております。より充実した記念号となるよう皆様よりの原稿をお待ちしています。「寄稿については支部役員までご連絡して下さい。」
http://www.tdu-koyu.com/shibu/chishibu.html

副支部長 田中 豊明